

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000147		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから尼崎小田		
所在地	兵庫県尼崎市西川2丁目37-3		
自己評価作成日	令和7年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和7年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様のニーズに対応できるように、居室担当制としており担当が希望や思いをくみ取り可能な限り対応できるようにしている。  
職員は入居者様にとってここから尼崎小田が生活の場という事に着目し生活でのADLの保持に努める。認知症介護において結果を求めすぎず入居者様のペースを優先します。入居者様に対する敬う気持ちを持ちケアに対するストレスを職員会議等で話し合い日々笑顔で対応できるように努める努力を目指します。  
看取りまでの貴重な時間を有意義に過ごして頂けるように支援していきたい。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は周辺に商業施設も多く、生活に便利な環境を有しながらも、静かな住環境にある。全室個室でプライバシーが確保されており、クローゼット・冷暖房・ベッドが各居室に設けられており、利用者の思い出の品も持ち込み可能である。管理者を中心に経験豊富なスタッフが常駐し、安心の介護を提供している。レクリエーション活動にも積極的に取り組んでおり、季節ごとの行事だけでなく、日常の外出・外食などにも力を入れている。「自宅にいるような安心感」があり、入居者の趣味や好みに合わせた生活支援を行っている。食事も手作りであるため、個別対応が可能であり、細やかな対応が出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フローの見やすい所に掲示している。それに沿ってサービスのプランを作成、実践に繋がられるようにしている。職員会議などでその都度理念に沿って方向性を示している	理念はフロアに掲示されている。理念・基本方針に基づき、単年度計画・行事計画が策定されている。例年よりもイベント機会を増やせるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回古紙回収などに参加し また 地域でのカラオケなど施設を開放して一緒に参加している	事業所の1階は地域交流スペースとしても活用されており、地域住民を巻き込み、カラオケなどのイベントを実施している。ボランティアの受入を行っており、直近では、ハワイアンダンスなどを企画・検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで町会の方を通じて認知症の理解など相談できるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括・町会長・クリニック・家族様参加され、現状や計画・事故報告・行事など説明し参加者からの意見交換など運営に反映している	運営推進会議は2か月に1度開催されている。家族・地域包括・町会長・提携医療機関などが参加している。施設内の状況や行事、ヒヤリハット・事故報告などを説明し、意見交換を行い、サービス向上に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて 連絡を取るようになっている	市担当者とは定期的にメールなどで連絡を取り、情報共有・相談に乗ってもらっている。市の連絡協議会はコロナ禍以降、開催されていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員において理解は実践している。3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催、職員会議などで話し合いストレスを溜めこまないように早期に改善できるように心掛けている。玄関の施錠は、安全性を最優先に考え、入居者様及び家族様にも理解を頂いている	「身体拘束の適正化マニュアル」を整備し、マニュアルに基づき、サービスを提供している。3か月に1度身体拘束適正化委員会を開催し、課題にあがった内容に対し、研修を行っている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回委員会を開催 内部研修にて重要視し話し合い・研修を行っている	「虐待防止のための指針」を整備し、職員に周知している。管理者は介護アプリの記録を日中・夜間ともにタイムリーに確認を行い、「他者に見られながら仕事をしている」という意識付けを職員に行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる入居者様・家族様には助言を行っている	成年後見人制度を申請中の利用者があり、毎年、権利擁護に関する研修を行っている。権利擁護に関するパンフレットを完備しており、管理者を中心にいつでも説明できる体制である。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が個別に説明し、理解納得が出来るように丁寧に説明に努めている	紹介会社から見学に繋がり、入居となることが多い。管理者が利用者本人や家族との面談を通じて、要望の聞き取りを行っている。また、十分な説明を行い、看取りの方針についても同時に確認を取っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスプランの変更時や面会時などに要望や意見を聞いて反映させている	家族の面会は多く、要望を直接伝えることができる機会が設けられている。また、利用者の意見を聞き取り、改善に向けて積極的に取り組んでいる。「外食したい」と要望のあった利用者にはラーメンや焼肉を食べに行った。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、アンケートを配布し意見や提案の機会を持っている	職員会議にて課題・不満に思っていることを聞き出し、直接話し合える環境を整備している。人事考課が設けられており、年に2回面談を実施している。細かなニュアンスを伝える際には、外国人職員には通訳をつけ、面談を行い、自身の気持ちが伝えられるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人的な意見や要望など常に代表者に伝える機会を持っている。不安材料はなるべく早く解決できるように努めている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定期的に、内部研修を行っている。全員が回覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設で、交換交流研修などを行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にてご本人様の希望・要望を聞くようにしている。その後も状況の変化に応じて一緒に方向性を検討しながら不安要素の解決に取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	密に連絡を取り、不安解決に努め、関係性を深めるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、家族様の希望 能力 意思をくみ取り他のサービスも対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を保持できるように努めている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係性の継続や修復が出来るように 間に入り調整を行っている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防をしながら 面会・外出が出来るように努めている	利用者に対して、個別支援を行っており、近隣の商業施設への買い物や外食に行っている。面会は随時受付けており、家族や友人の訪問がある。毎年、年賀状を家族・馴染みの人に出しており、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の思いを優先し 職員が間に入り積極的に交流の場を設けるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、相談や支援に応じる事伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様 個々のニーズが把握できるように努め アセスメント・ケアプラン・モニタリングを行い サービスに反映させている	入居前面接時を含め、利用者がどうしてほしいのか？どのように話せば笑うのか？等を注意深く観察することを重ねている。家族の持つ目線や思いとのギャップが浮き彫りになることもあるが、利用者に寄り添う姿勢を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様との会話の中から情報や ヒントその他関係者からの情報		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前と入居後の変化についても情報を共有するようにしている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様・介護職員・ケアマネ・クリニックなどの意見を聞きながらプランに反映させている	6か月ごとに介護計画更新がなされている。更新時に合わせてモニタリングを実施している。ケア会議と共に日頃の申し送りで情報共有がされている。ケアマネは週2回の勤務であるが職員との関係性も構築されており情報収集が確実にできている。	担当者会議議事録には、医師や看護師からの意見も記載することが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを介護記録やケアプランチェックに記録し 申し送りや会議などで見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・家族様の状況に応じ 受診時の送迎、外出時の付き添いなど 介護負担も軽減できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の方・民生委員に定期的に地域の催し物など知らせて頂いている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に必要なに応じて 主治医・家族様・事業所との面談を実施し、意見や意向を伺い納得した医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を継続している利用者はあるが、契約時の説明を受け全員が協力医を主治医としている。利用者の状態について注意事項のある時は主治医から直接、家族に連絡をいれている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のかかりつけ医の訪問看護時相談している 個別に必要に応じ訪問看護を対応している		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と退院調整を 退院前にカンファレンスに参加させて頂き 状態の変化などの対応について指導を頂いている	入院時には、介護サマリーにて情報提供している。面会制限もあるが、家族との調整で行ける時には訪問するようにしている。退院時カンファレンスには参加し、本人の状態把握と共に注意点を職員間で共有している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に看取りについて説明したり 意向を伺っている。延命の意向もうかがっている	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」「看取り介護についての同意書」「全身状態が悪化した場合について」が整備され、時間をかけて家族への丁寧な説明がなされている。同意等について、いつでも意思変更が可能であることも伝えている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に状態の変化などは申し送り・介護記録にて把握して訓練して実践力を身につけるように指導している		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成により 全職員に研修を行っている	BCPが策定されている。年3回の職員研修が実施され、年2回は防災訓練も実施できている。緊急時連絡網が整備され事務所に掲示されている。備蓄防災品は3日分が確保され、事業所内で適切に管理されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭に ご利用者の傍に寄り添い ゆっくりと落ち着いた態度で ご本人様が理解できるように説明を行なうようにしている	館長は、利用者の羞恥心に留意した排泄関連への指導を大切にしている。必要物品の準備や職員間での声掛けや連携が重要である事を伝えている。入浴は基本的に同性介助を行い、利用者がリラックス出来るように心がけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ選択肢を提示して ご本人様の意向を聞いて 同意を得ながら対応している		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・外食・散歩・買い物など できるだけ希望に沿って行っている。食事のタイミングもご本人様の意向に沿って摂ってもらっている		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用して定期的に散髪・毛染めをしてもらっている 外出時は衣服と一緒に選んで頂きおしゃれを楽しんで頂いている		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜の盛り付けなどに参加して頂き 食事の楽しみを一緒に感じて頂くように支援している。たまには外食にて好みの食事を楽しんでいけるように支援している。普通食が召し上がれない入居者様にはその人らしい食事を提供している	朝食以外は、食材の配食により調理専従者が調理して提供している。キッチン前には手書きメニューが掲示されていた。手作りおやつの際は利用者も参加している。ソフト食や刻み食は、職員が利用者個人に適した状態で介助を行っている。近隣での外食も、利用者希望に沿ったメニューで実施している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理スタッフと一緒に食事摂取の状態を観察し、状態に合わせて食べやすいように工夫したり 補食を検討したりしている。毎月の体重測定や血液検査なども評価しながら管理栄養士の指導を受けている		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科医からの指導を受けている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の要望に応じて、ポータブルトイレを使用したり、排泄パターンを活かしてトイレ誘導を行っている	骨折直後の入居者が、汚染が多くあったが排泄パターンの把握と適切な誘導により、汚染回数の減少が認められた例がある。布パンツ使用の利用者は複数名いる。夜間ポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や・食物繊維・乳酸菌を多く含む食事を取り入れるように努めている。主治医との連携にて排便コントロールを行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴になっているが ご利用者様の希望や体調に配慮して対応している。なるべく同性介助対応できるように心掛けている	週3回の入浴を実施している。午前・午後は利用者希望に沿っている。入浴剤を個人的に使用する利用者もいる。同性介助となるよう対応している。入浴を好まない利用者もいるが、曜日や順番変更で柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の状態から 休息の時間を設け 昼寝が必要ならば臥床時間を作る。夜間不眠時は 暖かい飲み物提供 寄り添いながら過ごして頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用など 体調変化など早期に気が付くように心掛けている。また変化があれば 主治医に報告・相談する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除・シーツ交換・洗濯・食器洗いなど職員と一緒にしている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外出・外食・散歩など行っている。また家族様 面会時は散歩に出かけられている	家族が面会に来て、外出同行することもある。近隣のコンビニでの買い物や外食、散歩は日常的に実施されている。各居室のベランダ扉の施錠も無く、いつでも外気浴ができる環境である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様から了解が得られた方は所持しており。買い物に出かけられたり、外食などされている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話持参の方は 家族との連絡を密にとっておられる。タブレットでの面会も行っている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに 花や作品など展示している。玄関には季節のものを飾っている。1Fフロワーでは。カラオケ・イベント時の食事など全員で楽しめるようにしている	共用の空間は、やや手狭な印象は否めないが、利用者との距離が近く、表情や様子が分かりやすいという利点がある。リビングはガラス戸が大きくて採光よく明るい。居室扉は重厚感があり表札は木製、植物が描かれている。廊下には2人掛けソファがあり、一人になれる空間が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング食席で気の合うご利用者様と話されるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた机・写真・本などで居場所を作っている	ベット、クローゼット、洗面台、カーテンが備え付けとなっている。使い慣れた机や整理ダンスなども持ち込まれ、孫の結婚写真・家族の思い出写真・カレンダー・お気に入りの絵など思い思いに飾られていた。壁面一杯に自筆でのメモを貼り「物忘れ防止」としている利用者の居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや椅子・ソファ・机などを置いて立ち上がりしやすくしたり、休憩を取りやすくしている		

質問事項		回答内容(回答者: 10名)				
1	職員は、ご家族の困っていること、不安、求めていること等の話をよく聞いてくれますか？	1.よく聞いてくれる	2.まあ聞いてくれる	3.あまり聞いてくれない	4.全く聞いてくれない	無回答
		6	4	0	0	0
2	事業所でのご本人の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、ご家族に報告がありますか？	1.よくある	2.ときどきある	3.ほとんどない	4.全くない	無回答
		3	7	0	0	0
3	職員は、介護計画をご本人やご家族にわかりやすく説明し、一緒に内容に関する話し合いをしていますか？	1.説明を受け一緒に話し合っている	2.説明は受けたが話し合っていない	3.説明も話し合いもない		無回答
		5	5	0		0
4	職員は、ご本人の思いや願いと、要望等わかってくれていると思いますか？	1.よく理解している	2.まあ理解している	3.理解していない	4.わからない	無回答
		4	5	0	1	0
5	職員は、ご本人や家族のその時々々の状況や要望に合わせて、柔軟な対応をしていますか？	1.よく対応してくれる	2.まあ対応してくれる	3.あまり対応してくれない	4.全く対応してくれない	無回答
		8	1	1	0	0
6	事業所のサービスを利用することで、ご本人に生き生きした表情や姿が見られるようになりましたか？	1.よく見られる	2.ときどき見られる	3.ほとんど見られない	4.わからない	無回答
		3	5	1	1	0
7	ご本人は、職員に支援されながら、戸外の行きたいところへ出かけていますか？	1.よく出かけている	2.ときどき出かけている	3.ほとんど出かけていない	4.わからない	無回答
		1	3	3	3	0
8	事業所のサービスを受けていて、健康面や医療面、安全面について心配な点はないですか？	1.全くない	2.あまりない	3.少しある	4.大いにある	無回答
		3	5	2	0	0
9	事業所は、ご家族が気軽に訪ねて行きやすい雰囲気ですか？	1.大変行きやすい	2.まあ行きやすい	3.行き難い	4.とても行き難い	無回答
		8	2	0	0	0
10	ご家族から見て、職員は生き生きと働いているように見えますか？	1.全ての職員が生き生きしている	2.一部の職員のみ生き生きしている	3.生き生きしている職員はいない		無回答
		9	0	0		1
11	ご家族から見て、ご本人は今のサービスに満足していると思いますか？	1.満足していると思う	2.どちらともいえない	3.不満があると思う	4.わからない	無回答
		7	1	1	1	0
12	ご家族は、今のサービスに満足していますか？	1.大変満足している	2.まあ満足している	3.少し不満がある	4.大いに不満がある	無回答
		6	3	1	0	0